

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 3年 3月 2日

事業所名 おひさまはうす

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			・個別、共有スペースなど場所を臨機応変に変えて対応している。	・運動プログラムのスペースをもう少し確保できるようにしたい。また、就労を見据えた作業エリアについても検討していきたい。
	2	職員の配置数は適切である	○			・通常の配置人数に加え、最低でも1名、利用者が多い時には更に2名追加し配置している。	・現状の配置を継続することができるよう今後も調整していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		・現在利用されている方の活動に支障がないよう家具をすぐに動かすことができるようにしている。	・完全にバリアフリー化されていないため車椅子の方が移動できない場所があるので改善が必要。ニーズや予算など様々な面から検討していきたい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			・子どもたちの来所前に常勤、非常勤で共通理解を持って関わるようにしている。 ・定期的に職員と管理者が面談を行い、事業所としての目標や個人の目標などを確認し合える場を設定している。	・広く職員が参画するという点について、現状は職員数も少なく全員できちんと話をする場(スタッフミーティングなど)を月1回設けることができているが、今後職員が増えた時にどのように広く参画してもらうかにちて検討が必要である。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			・このアンケートや、保護者交流会、面談、個別療育字のやり取りなどを通して意見等を把握できるように工夫している。	・今後も現在の取り組みを継続していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			・HP上で公開している	・HPやfacebookの登録はしている。個人情報の取り扱いに注意をしながら随時配信していく予定にしている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		・監査役の他機関の方もおられるが、頻度が少ないことはある。	・この後は虐待防止委員会の立ち上げにとmない、定期的に第三者評価を実施していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			・2ヶ月に最低でも1回機会を設けている。Zoomを併用するなどの工夫をしている。	・現在は管理者が中心となって研修の機会を設定しているため、今後については現場スタッフが他スタッフに情報提供をする場を設けるなど自分の学びを他者に説明する機会を設けていきたい。

9	<p>アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している</p>	○			<p>・コロナの影響により保護者の方に迎えをお願いしたことにより、保護者の皆様にはご足労をかけているが、スタッフとしてはゆっくり保護者の方とお話しできる時間が増え、ニーズの聞き取りなどが通常の年よりもかなり具体的にできた印象がある。</p>	<p>・実際に活動されている様子をビデオ撮影し、保護者の方やスタッフと実際の様子を確認しながらニーズや課題を分析していくなど検討している</p> <p>・子どもたちの成長に伴い、ニーズの大きな変化が見られる(例：以前は学校での過ごし方が中心→その先、就労や進学などの選択肢をどのように決定していくのかなど)。その対応について、スタッフも知識やスキルの向上を図る必要がある。</p>
10	<p>子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している</p>	○			<p>・標準化された発達検査などは実施していないが、インフォーマルな評価のツール(例：評価キット*自閉症eサービス作成)を活用したり、様々な角度から利用する子どもたちのことを知るよう勤めている</p>	<p>・まだ一部のスタッフしか評価キットを活用できないため今後は誰でも活用できるような工夫が必要</p> <p>・利用する子どもたちの年齢やタイプもかなり多様になってきたため、子どもたちや保護者の方のニーズのアセスメントの仕方を改めて検討していく必要がある(例：就労に特化したアセスメントツールなど)</p>
11	<p>活動プログラムの立案をチームで行っている</p>	○			<p>・現状を日々の振り返りや申し送りで共有しプログラムを検討している。必ず2名以上のチームで活動の組み立てをするようにしている。</p>	<p>・今後については、事業所内での立案はもちろん、同一法人の他事業所から意見を求めたり、地域の資源と連携を図るなども検討していきたい(例：おひさまが〜でんの畑仕事など)</p>
12	<p>活動プログラムが固定化しないよう工夫している</p>	○			<p>・外部の機関とも連携し様々な活動を提供している。</p>	<p>・固定化しないように工夫しているが、どうしても固定になってしまうことがある(例：その方が安定して活動できる方もいるため)。そのような場合の関わり方を検討していく必要がある。</p>
13	<p>平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している</p>	○			<p>・個々の支援計画を確認しながら個人の活動の組み立て、集団での活動、地域活動など様々な設定している。</p>	<p>・特に長期休みについては、利用する子どもたち自らがテーマを決め、準備、実施、振り返りができるような活動にも取り組みたい。</p> <p>・おひさまが〜でんなど他機関との連携もうまく組み合わせ、充実した活動にしていきたい。</p>

な 支 援 の 提 供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・個別療育と集団活動の併用により個別で取り組んだことを集団の場面に応用する機会ができています ・集団活動の合間で1対1でスタッフと一緒に活動する機会を設けている。そこで自立したことを集団に応用している 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用枠の都合により、個別療育と集団活動を併用したくてもできない方がいる。利用枠の整理を今後していく必要がある。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・常勤、非常勤に限らず情報共有できるよう時間帯の調整や記録用紙の活用を工夫している ・その日、誰の何にスポットを当てて関わるのかを確認し、役割分担を明確にしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤職員は日々の継続した支援で理解を深めている。一方で、定期的に関わる非常勤職員については伝え聞くだけになるため具体的にイメージしにくいことがある。そのため、ビデオ撮影をしておくなどして共有の仕方を検討していく必要がある。

16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			・必ず振り返りの時間を設けている。	・振り返りの際に、実際にその現場を見たスタッフと伝え聞くスタッフではイメージに違いが生じることもあるので、事前に打ち合わせていた取り組みを実施する際にはビデオ撮影等しておく。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			・日々の活動記録以外にも、コミュニケーションサンプルや課題分析、生活記録表など、個々のニーズに合わせた記録を取り、検証できるようにしている。	・今後も今の取り組みを継続することができるように調整を行う。 ・誰でも客観的なデータを記録できるような評価についても研修などで学んでいきたい。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			・必ず定期的にモニタリングを実施している が、それに加え送迎時や電話連絡等で常に状況把握できるようにしている。	・今後も電話連絡やメール、場合によってはzoomを活用し、家庭の過ごし方を確認させていただくなど臨機応変に対応していきたい。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○			・事業所スタッフだけでなく外部講師も招いて様々な領域の活動を組み合わせで行っている。	・現在のプログラムはスタッフが必要と思うことを中心に行っている。今後については、利用する子どもたちや保護者の方のニーズも取り入れていくようにしたい。
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			・現状は基本的に管理職が参加しているが、会議の内容をスタッフ体制を鑑みて場合によっては管理職と現場スタッフの2名で参加している。	・利用希望者がかなり増加してきているので
21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			・送迎については基本的に保護者の方を通してやりとりしている。	・送迎時に配慮が必要な事項については今後も保護者の方、学校の先生方と相談しながら進めていきたい。
22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				現在医療的ケアの必要なお子さんの利用はない	現在バリアフリーの問題やスタッフの体制に困難さがあり受け入れができていない。今後ニーズがあれば対応の検討をしていく必要がある

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			・担当者会議や電話連絡などして積極的に連携を図っている。特に近隣の保育所とは良好な関係が築けていると感じる。	・今後も連携していきながら、お子さんにより良い支援を提供するために情報共有等していきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			・担当者会議などの場に積極的に参加し連携を図っている。	・これまでの活動と最近評価した際のまとめを作成したり、サポートブックを一緒に作成するなどの工夫を今後も継続していきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			・支援センター以外にも、関係する言語聴覚士の先生に助言を求めたりしている。	・今後は就労や進学などがテーマになってくる方が増えてくることが予想されるため、発達障害者支援センターからも助言を受けるようにしていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○	・新型コロナウイルスの影響により、あまり交流できていない。	・新型コロナウイルスの感染状況などを鑑みながら検討していく。ただ、お子さんのタイプによっては自己理解や他者理解の観点から配慮が必要だと感じているので、個々のニーズを確認しながら検討していきたい。
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	○			・協議会に毎回参加し、福井県嶺南地区の現状や課題について共有し、当事業所に何ができるのかを考えている。	・現状、一部の職員しか参加できていないため、様々な立場の職員も参加できるようにしていきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			・送迎時や面談等で共通理解を持つことができるようやりとりしている。	・お母さんとのやり取りが多いため、他のご家族(お父さんや祖父母、場合によってはごきょうだい)とも共有していきたい。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			・保護者交流会を通して情報共有や関わり方のアイデアを共有している。	・よりたくさんの保護者の方にご参加いただけるよう開催日の調整をしていきたい。 ・今後、研修形式も検討していく予定。

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			・管理者が契約時(または契約更新時)に説明している。	・今後も今の対応を継続し、丁寧な説明に務めたい。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			・様々な経験のあるスタッフが在籍しているので相談内容に応じてスタッフと情報共有しながらできる限り役に立てるよう検討している。	・今後も現在の対応を継続していくことができるようにしていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			・月に1回保護者交流会を実施している。	・よりたくさんの保護者の方にご参加いただけるよう開催日の調整をしていきたい。 ・今後、研修形式も検討していく予定。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			・申し入れがあればすぐに児発管も入ったミーティングで検討し、できる限り早く対応できるようにしている。	・対応の体制整備と合わせて、日常的に連携をとりながら小さな芽の段階で気づくことができるような工夫をしていきたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			・半期に一回書面で活動報告をしている。	・頻度が少ないので検討していく必要がある。
	35	個人情報に十分注意している	○			・個人情報使用の目的や同意書を作成するなど細心の注意を払って取り扱うようにしている。	・今後、会報やHP、facebookなどを通して活動の報告をしていく予定にしているため、継続して十分注意しながら取り扱うようにする。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			・視覚的なコミュニケーションシステムや構造化のアイデアを活用している。	・いわゆる知的にグレーなお子さんから高機能タイプのお子さんに対する支援ツールについて、今後スタッフがスキルアップしていく必要があると感じている。研修に参加するなどスキルアップをしていきたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○	・今年度に関しては新型コロナの影響により招待する活動は実施できなかった。	・地域の民生委員の方と連携していくなどして今後も地域に開かれた運営を目指していきたい。 ・利用する子どもたちのアート作品を展示するなどの企画も検討していきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		・マニュアルは作成しており、定期的に他機関と情報交換を行っている。	・保護者の方にその取り組みを周知できていない現状がある為、その点をどのようにするか検討していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・定期的に消防訓練を行っている。また、スタッフが利用する子どもたちの動きを想定しながら避難経路確認を行っている(その場で待つことが難しい方は車に乗車してもらうなど)。	・スタッフのみの訓練がほとんどのため、子どもたちとの訓練を実施したり、日々の活動の中で非常時の対応について学ぶ機会を設けるなどしていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・内部研修で虐待防止について学ぶ機会を設けたり、日々の支援の中で自分たちの関わり方を振り返る場を設けている。	・次年度、虐待防止委員会の立ち上げに向けて現在準備中。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		・そのような対応が必要なお子さんがおられないが、必要になった場合は徹底していく。	・やむ終えずそのような対応が必要な場合は、マニュアルに従い対応していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・現在そのような配慮が必要な方がおられない	・スタッフの中には看護師資格のある職員も在籍しているため、そのような対応が必要な方が今後利用された場合は十分気をつけて配慮していく。

	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		<p>・少しのこと、かなり細かいことについてもスタッフが気になった時点で必ず記入してもらい、毎回閲覧で他スタッフも確認できるようにしている。大きな事案についてはスタッフミーティング等で検討している。</p>	<p>・スムーズな閲覧方法の検討が必要。個人情報にも配慮が必要なため、取り扱いには十分注意していきたい。</p>
--	----	---------------------------	---	--	---	--